

科目名	商品開発実習							年度	2026
英語科目名	Product development practice							学期	通年
学科・学年	応用生物学科 2年次	必/選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	森内 寛・榊原みどり・宮澤 美弥子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		化粧品商品開発		
【科目の目的】 商品開発論にて習得した知識と技術を用い、化粧品や食品の新商品開発を行う。開発した商品については、卒業展での展示を行い、流通活動を行う能力と態度を身につけることになる。									
【科目の概要】 グループ単位で化粧品もしくは食品の開発を行うことにより、商品開発の知識や技術を習得するとともに、品質管理の考え方についても学ぶ。									
【到達目標】 A. 授業にはすべて出席する必要がある。体調管理を万全に整え、遅刻欠席のないように務めることができる。 B. 本実習にて学んだ実験手技を手順通りに正確に行うことができる。 C. 他の実験協力者（実験班員）と積極的にコミュニケーションを取って、実験に参加することができる。 D. 提出が義務付けられたレポート・課題を提出期限までに遅延なく提出できる。									
【授業の注意点】 遅刻・欠席は実験技術を理解できなくなる主原因である。日々の体調管理をしっかりと行い、必ず出席すること。実験書を当日読み始めることは、安全確保の観点から大変危険である。前日に実験書に記載されている実験操作を読み、理解しておくこと。授業時数の4分の3以上出席しない者は成績評価を受けられない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう					レベル1 要努力	
到達目標 A	本科目の実習に無遅刻・無欠席である。		本科目の実習に1回だけ遅刻した。					本科目の実習に2回以上遅刻または1日以上欠席した。	
到達目標 B	授業で学んだ手法・手技を実践的に行うことができるだけでなく、積極的に提案を行った。		授業で学んだ手法・手技を実践的に行うことができた。					授業で学んだ手法・手技を手順通りに行うことができない。	
到達目標 C	他の実習協力者とコミュニケーションを取って活動していただけでなく、理解度不足の他の協力者に教える姿勢が見られた。		他の実習協力者とコミュニケーションを取って、実習に参加していた。					自己目的的な行動を行い、コミュニケーションを取って実習を行う姿勢が見られなかった。	
到達目標 D	卒業展での展示において中心的な役割を担った。		卒業展での展示において積極的に参加した。					卒業展での展示において間接的に参加した。	
到達目標 E									
【教科書】 特になし									
【参考資料】 必要に応じてプリント教材を配布する。									
【成績の評価方法・評価基準】 出席（40%）、レポート内容（30%）、実験手技（30%）の総合評価とする。ただし、レポート未提出が1件でもある場合は不合格とする。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		商品開発実習			年度	2026
英語表記		Product development practice			学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス	実験ガイダンスと安全教育を行う。	1 ガイダンス	どのような実習を行うかを理解し、実習を行う上での注意事項を説明できる。	1	
2			2 安全教育	過去の事故事例を理解し、それを避ける対策「KY（危険予知活動）」を行うことができる。	1	
3	商品開発①	アイデア出し	1 商品のアイデア出し	グループで新商品のアイデアを出し、まとめることができる。	1	
4			2 商品案まとめ	新商品のアイデアまとめ、開発の方向性を決定することができる。	1	
5	商品開発②	市場調査	1 環境分析	社会・消費傾向、技術動向といったマクロ環境や、自社、競合企業、顧客といったミクロ環境を理解し、商品コンセプトに反映できる。	1	
6			2 市場調査	市場調査を行い、商品コンセプトを考案することができる。	1	
7	商品開発③	商品企画	1 商品企画書の作成	環境分析や市場調査をふまえて商品の企画書を作成することができる。	1	
8			2 商品の仕様と詳細設計	商品仕様を具体的な考え、ねらい明確にして商品設計を行うことができる。	1	
9	商品開発④	試作	1 商品の試作	商品の仕様・設計をもとに試作品を作製できる。	1	
10			2 仕様・設計の見直し	試作品を試用・試食し、仕様・設計を見直すことができる。	1	
11	展示準備①	試作	1 商品の試作	改良した商品の仕様・設計をもとに試作品を作製できる。	1	
12			2 仕様・設計の決定	試作品を試用・試食し、仕様・設計を完成することができる。	1	
13	展示準備②	卒業展での展示準備	1 展示案の作成	卒業展の展示ブースのデザインを決定できる	1	
14			2 展示物の作製	卒業展の展示物を作製できる	1	
15	まとめ	第1回から14回までの内容を総復習する。	1 第1回から14回までの内容を総復習する。	第1回から14回までの内容を理解している。	1	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等